

議事要旨(3)退職給付専門委員会における検討状況（IASB に対するコメント対応）について

中根研究員より、IASB ディスカッション・ペーパー（DP）「IAS 第 19 号（従業員給付）の改訂に係る予備的見解」の概要及びコメント案について説明がなされたあと、次のような質疑応答が行われた。

（リサイクリングについて）

ある委員より、DP ではリサイクリングが明確に禁止されているのかとの質問があり、これに対して事務局より、DP には、財務諸表の表示プロジェクトが完了していない中で、リサイクルを導入することには消極的との記載があること（1.15 項）の説明がなされ、また、DP は 3 月に公表されているが、6 月のボード会議において、財務諸表の表示プロジェクトはリサイクリング付きの純利益を存続させることを決定している旨の補足説明がなされた。

（コメント案について）

複数の委員より、コメント案につき次のような意見があった。なお、今回提示の案はコメントの方向性を示したものであり、次の意見については今後の具体的なコメント文案検討の中で反映していく旨、事務局から説明がなされた。

<即時認識について>

- ・ DP では、包括利益計算書上もいわゆる即時認識をするべきとされているが、米国における退職後給付会計の見直し（フェーズ 1）では、SFAS 第 158 号により、貸借対照表上のみ即時認識とし、損益計算書についてはリサイクリングが認められている。我が国も米国のフェーズ 1 までの見直しの方法を支持することをコメントとして明記してはどうか。

<抛出ベース約定について>

- ・ キャッシュ・バランス・プランについて十分な検討がなされないまま、抛出ベース約定という新しい定義が DP では提案されているが、現行の区分を見直す理由が不明確であり、また、抛出ベース約定に区分された場合、測定方法が大きく変わり（公正価値で評価）、実務が混乱すると考えられるため、抛出ベース約定の検討は棚上げするべきということをコメントとして明記してはどうか。

<給付建約定の表示アプローチについて>

- ・ 提案されているアプローチは、遅延認識及びリサイクリングが認められていないため、支持しない旨のコメントを行うことには賛成するが、例えば、DP におけるアプローチ 1 については「全面公正価値会計そのものであるため支持しない」など、個々のアプローチに対して支持しない理由を明記してはどうか。

<他のプロジェクトとの関係について>

- ・財務諸表の表示プロジェクトではリサイクリング付きの純利益が存続することとなったが、これを踏まえると給付建約定の表示アプローチはいずれも不適切ではないか。また、金融商品についても全面的な公正価値測定を長期目標とした見直しが検討されているが、提案されている拠出ベース約定の取扱いは当該考え方を先行的に導入しているとも考えられ、IASB が志向する全面公正価値会計のバイパスに使われかねないことに留意すべきである。

以 上